

大阪工業大学 應援團

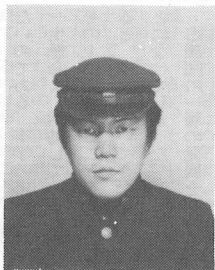
團報



題字：青井忠正学長

発行所 大阪工業大学 應援團
発行責任者 安田 幸弘
編集責任者 田中 一夫
大阪市旭区大宮5丁目16番1号
TEL (06) 952-3131

團報第12号



第十九代團長挨拶

大阪工業大学 應援團
團長 安田 幸弘

新入生諸君が、この大阪工大に入学して早や二ヶ月が過ぎようとしている。諸君らは、大学生活にも慣れ、新しい友人や、先輩達と、有意義な毎日を送っている事と思います。

の中に、くだらないやつが多い、もつと友人がほしいと言う人間が六割以上という事である。大学という所は、唯単に学問の場ではなく、人間形成の場である。将来社会へ出て他人と調和の出来る人間になる事が大切なのではないだろうか。その為にも、友人を増やし、先輩をつくり、又、先生方とも対話の機会を持ち、より多くの対人関係をつくる事が人間形成につながるのではないだろうか。そして、自分の

見よ麗はしの此の学園
理想をひめし若人が
四年の春をちぎりては
丈余の潮にさおきして
科学の真理さぐらんと
共に誓いし健児等が
今雄々しくも振立つ
見よ熱烈の此の意気を

① 何故アンケート調査を行なったか
我々の目指す応援団とは、工大の発展と全学生、つまり工大といふ大規模な組織の躍進を目標とし、又工大の全学生から信頼され且つ慕われる応援団でなければならぬ。しかし最近では、学生における応援団の必要性というものが薄くなってきていると感じる。この原因は、我々応援団活動が現代の時代にマッチしたものでなく、又我々と学生との接する場や応援団と学生とが何か共通のものを考える等という点に欠けていた為ではないだろうか。そこを改善していくには、学生も応援団活動を理解し、

② アンケート結果の検討
まずAの一学校設備については、やはりキャンパスが狭いというの一番多かった。しかし我が工大の堤の淀川には、キャンパス代わ

りになるグラウンドや広場があるだろうか。そうならば、学生間で団結力も増し、もつと積極的に行事に参加し、又学内も活気づくのではないだろうか。そのための活動の第一歩として、今回のアンケート調査を行なったわけである。

現代のこの世知辛い世の中において、学生はもつと物事を考える時間を持つべきかと思ふ。そして今、自分は何をすべきか、又しなければならぬかという事を考えて行くのではないかと。又、小さなものでもよいから何か目標を持って、学生生活を送って行く。そうすれば、現状よりは少しでも学生生活が改善されて行き、ワンパターン等という気持ちは少なくなるのではないだろうか。

大学歌

竹友藤風 作詞
信時 潔 作曲

一、産業の意図なくましく
都の力あつて

築き上げたるア、学も
仰げ雲霧晴れわたる

生駒の山の空高し

二、新生の道ひらけ行く
国土の命ひなごりて

胡弓ひゆたけり、ア、学も
歌え広野に大堤の

堤をあらう水清し



6月13日 (土) PM13:20~

第3回学内弁論大会開催

141教室

一昨年、昨年に引き続き、本年度も六月中旬に、応援団主催の第三回学内弁論大会を開催することになりました。今回の弁論大会は、学生諸君の身近な問題をテーマに、学生生活を意義あるものとして行うという目的で行われ、少しなりとも諸君の生活に活気が出るよう希望するものです。

■ 弁論大会の意義 ■
弁論大会には、一体どういう意義があるのでしょうか。弁論大会という限りにおいては、やはり、弁論術にすぐれ、観客を説得するだけの力のある者が弁論に於いて競い合い、その話しっぷりに観客が評価するものと大部分捕えがちであると思われまふ。なるほど、弁論術にすぐれていることは、様々な点に於いて有利で、その術を養って行くことはすばらしいことです。しかし、弁論術なるものは、そういう場で数多く経験しなければ身につかないのです。我が応援団が主催する弁論大会でも、そういう人が多く参加して戴き、少しでも、弁論術を身につけて戴け

るのなら幸いです。
しかし、弁論大会の本質的な意義は、自分の心の中にある思いを広義に主張し、他の多くの人も又その人の主張を聞いて、自分の人生を考えていくということにあるのです。自分の心の悩み、不満、自己の体験を公の場で主張することによって、多くの人が共鳴し、賛同し、お互いが自分の人生について考え合い、成長していくものなのです。弁論大会はそういった場であり、多くの人に参加して戴きたいのもそういう理由からです。

■ 学生生活と弁論大会 ■
私達学生は、ほとんどの生活を大学で過ごしている。いや本来、過さなければならぬにもかかわらず、大学生活にエンジョイ出来ないう現状をそのまま放置してしまつては、学生諸君の発展もなく、非常に悔やまれることです。この原因は色々考えられますが、その一つには、私達学生の志気低下が否定出来ないでしょう。私達は個人の自由を主張して生きていますが、本当の自由は、

学生にとってみれば、よりよい学生生活を確保する自由であり、その自由こそ、大学生生活にエンジョイ出来る根源を成すものでしょう。学生生活に不満を感じているのなら、学生生活をエンジョイしたいのなら、真の自由を求めて、よりよい学生生活を私達の手で築き上げて行くのではないかと。
私達は、今何をしなければならぬかを考えると、何が出来るのかを考えると、まず、私達の学生生活に於ける不満・悩みを自分の質がかなり向上しているのと、本年度も、より一層の向上が期待されるものです。ただ一つ残念なことは、まだ一般学生諸君の参加が少なく、弁士・観客共にほとんどがクラブ・サークルに加入しているもので占められていることです。

先日のアンケートの結果では、いろいろと不満・悩みを持っている者も多く、また、現在の学生生活に満足していないと答えた者は全体の三十八パーセントにも上りました。(という理由で満足していないか、具体的にどうい

新入生諸君に望む

文化会
本部長 亀谷嘉夫

新入生諸君、御入学おめでとう。新緑の季節、もうそろそろ大学生活にも慣れてこられたのではないだろうか。気がゆるみがちになるのもこの季節です。そこでもう一度、各自の大学生活に対する目標を再確認していただきたいのです。目標をまだもっていない方は、今大学生活とは何かをじっくりと見つめて、是非目標を持ってもらいたいのです。

大学生活においては、諸君は何をするにも諸君の主体性、自主性というものが十分条件です。それが、備わっていないと、諸君は大学生であると認められるのです。同時に、自分の言動に対する責任というものがあれば、私は、学生時代には、何をやってもよいと言っても過言ではないと思います。勉強に励むこと、結構です。クラブ活動に燃えること、大いに結構です。

この紙面をお借りして、私は諸君に三つのことを望みます。

第一に、より多くの人と接してほしいということです。そして、さまざまな人の考え、話し方、態度、ものの見方、人との接し方を自分のものと比較するのです。第二に、何でも体験してみるといいことです。私たちは若人です。その若さを武器にして、何でもチャレンジしてみることです。何事も肌で体験することです。

第三に、失敗を恐れるなということです。これで万全だと思つて実行したところ予想もしなかった結果に終わることがしばしばあります。何事も終わってみなければ成功か失敗かはわかりません。同じ失敗を二度と繰り返さなければ、失敗ほど自分の血や肉になるすばらしい反省材料はありません。

以上三つのことを、諸君の念頭にに入れて大学生活を送って下さい。これらはいずれも、自分の辞書を厚くする大切な要因なのです。

クラブ活動の意義

体育会
本部長 松林茂

新入生諸君が入学されて早や二ヶ月が過ぎましたが、少しづつ大学生活にも慣れてきたことと思つて、体育会に入会を勧めます。スポーツは我々に多くのものを教え、与えてくれます。だからと言って勉強はしなくてもいいという事ではありません。いろいろな知識を身につけると共に身体を鍛える事も必要であるという事です。スポーツを通して体力を形成し、クラブ活動における先輩、後輩等の人間同志のふれあいや協調性、独自性などが養われ、またどんな困難にも耐えきれぬ忍耐力をも得られるのです。そして同じ苦しみも共に分かちあつてより深い友情も生まれると思つて、それに加えて、スポーツによって得られる喜びこそ最高のものです。諸君の青春を燃やしてみようではありませんか。

市民レガッタ

応援記



桜の花も咲きはこる四月十九日の日曜日に、市長杯第三十四回大阪市民レガッタが大川(源八橋から川崎橋の一〇〇メートル)で行なわれた。

当日は、造幣局の桜の通り抜けが行なわれ、観客が非常に多かった。しかし、小雨が降り応援には、最高のコンディションではなかった。

今回は漕艇部からの応援の依頼があつたため我々応援団は、一般学生の参加を呼びかけて応援に参加した。

試合は、予選から我が校の独走という感じで進み快勝していった。昨年は、決勝においてコマ何秒という差で奇しくも二位に終わってしまったので、今年こそは汚名挽回しなければという気魄が、どの選手にもこもっている様に思われた。

決勝は、午後四時過ぎから始まった。さすが決勝に残った艇はどれを見てもさつそうとしていた。レースは、各チームの艇が、つばぜり合ひの様な状態で我々の目の前を通り過ぎて行き、思わず応援している我々の手にも力が入り、皆が一丸となって応援した。それから数秒後、艇はゴールに入った。がどの艇が勝つたのかは、我々の文化会各クラブ活動予定表を参照してください。

應援團と私

1・A・3 芝野一之

我部は昨秋の全国大会の際、応援団に応援して戴いた。その時、他大学の応援団は来ていなかった。我部の士気は応援団によって、より一層、鼓舞された。その時、応援団の有難さを痛感した。

応援などあつても、なくても結果は同じではないだろうか。正直なことを言うと、その時まで、私はそう思つていた。

無論、応援が直接、勝利に結びつくことはない。しかし、間接的な影響は大である。熱心に応援してもらえればもうほほ、闘志がわいてくる。熱心な応援にこたえて、頑張らねばならない。と思つた。

応援は有難いと、試合中、つくづく思つた。応援の意義はその点にあると思つた。心の支えの一つとなり、選手を励ます。そんな応援のできる応援団で居て欲しい。

応援団に望むことはそのことだけである。理想的な応援のできる応援団に、なつて欲しいものである。理想的な応援と一言で言つたが、決してやさしいことではない。技術的な面よりも、精神面が重要だと思つた。心のもつた応援ならば、技術が少々、未熟でも、選手を志気を鼓舞することは可能だと思つた。逆に技術がうまくとも、心のもつていない応援は良い応援とは言えない。選手と心が一つになつた応援こそ理想的な応援だと思つた。

私の見た應援團

女子クラブ 1・A・2

では、そんな応援をするためには、どんな努力をすればいいのかわからない。応援団の諸君が自分たちで模索し、見つけたら載せたい。

ただ、技術をおろそかにしてはいけませんが、精神面がより重要だ。これは応援団だけでなくあらゆるスポーツ、武道にも通じると思つた。武道を志している私にとっては、以上のような事を応援団に、求めたいのである。本学の応援団は、一生懸命よく活動していると思つた。その上に要領よく書くことになると、今まで書いてきたようなことになつてしまつた。

応援団の一層の発展を期待する。

昨年まで応援団というと、何か堅苦しくて怖いというイメージがありました。でもそのことは、近寄り難い反面、応援団の魅力でもあると考えていました。

昨年の大学祭のとき、応援団の団員の方が二、三人、私達女子クラブの催しを見に来て下さいました。私達女子クラブでは、占いをしていたのですが、占いがカードの意味を説明し始めると、「そやなあ、あたつてるわ。」「そんなところもあるなあ」と楽しげに、気軽に話して下さり、催し会場の雰囲気を盛り上げて下さいました。そのとき私は、それまで私に近寄り難さを感じさせていたのは、応援団の方の自分自身に対する厳し

- 人であつたらカワイイ。しかしそれは、決して廻りの者にまで、同じ厳しさを要求してはならないというところに気がつきました。そしてそのことにより、私の応援団に対するイメージが、それまでとは変わりました。
- 女子クラブのメンバーも、私と同様に、応援団について、知らないことが多いようです。応援団というものの性質上、縁の下力持ち的な役割が重要なので、私が応援団につきものマイナーなイメージがあるということも、いじめない事実として、受け止めて下さい。
- 次に、女子クラブのメンバーに、応援団のイメージについてインタビューしてみましたので、付け加えて書いておきたいと思つた。
- 「男の中の男。ヨヨノ大統領。日本一」
- 「旗持っている人、力持ちね。」
- 「アナクロニズム。」
- 女子クラブのメンバーも、私と同様に、応援団について、知らないことが多いようです。応援団というものの性質上、縁の下力持ち的な役割が重要なので、私が応援団につきものマイナーなイメージがあるということも、いじめない事実として、受け止めて下さい。
- 次に、女子クラブのメンバーに、応援団のイメージについてインタビューしてみましたので、付け加えて書いておきたいと思つた。
- 「男らしくてカッコイイ。」
- 「たまには、衣替えてよ。」
- 「団体でいては怖いけど、一

日替り「おめん定食」
お好み焼他
おめん
(小宴会に持ってこいの店)
営業時間:午後6時-午前2時迄
中宮4丁目 高速道路下
TEL 954-6477

雀荘 **大宮荘**
大宮荘はあなたの店です
工大生協斜め前
TEA ROOM
まるぐりっと
PHONE 954-9478 (バス停前)

幸寿司
TEL 954-9306
二階座敷
各クラブのコンパ
研究会新年会に御利用
卒年会に御利用
忘年会に御利用
下さい。

昭和五十六年度 團員紹介



写真前列は、幹部、準幹部一同
後列は、二回生一同
前列右より、
会計部長・プランバンド部長 上田 勝久
渉外部長・リーダー部長 清水 靖也
團長 安田 幸弘
副團長・旗手部長 田中 一夫
総務部長・旗手部長 林 賢一
リーダー部 黒田 康裕

旗手部 倉田 伸一
リーダー部 小川 洋一
リーダー部 忽那 康則
旗手部 広井 孝彦
副團長・情宣部長 山田 喜三
プランバンド部 野村 逸夫
リーダー部 谷口 昌功
IEI 黒田 康裕

工大に入学して

應援團一回生 黒田 康裕

現役受験に失敗し、一年間工大合格を目指して頑張った私にとって、非常に重みを感じて大学生活を過ごしている。「かしら通りの単位修得の難しさに驚いている。」これで留年でもしたら惨憺たるものである。二年まではストレートに上がれるようになったらいいけれど、それ以上は従来より難しくなったようだ。これではやりきれない。

ところで単科大学と言えは総合

最近の科学はめざましい発展を続けているが、その中で最先端の技術を身につけるのは工科大学としての理想だと思ふ。また我が工大ではその高い水準まで導いて下さるだけの立派な教授陣に恵まれているのは幸いなことだと思ふ。現在のそれは、戦争と供に歩んできたという事実が否定できない。最先端といつても人類のためのそればかりではなく、原爆という恐ろしく悲劇的なもので産出してしまった。これは科学が生と死に直面した学問であるとも言えよう。そしてそれが実際に使われたのが日本だけにとどまらず、方向性を持って学んでいかなければならないと思ふ。

工大ではすばらしいエンジニアを目ざすだけでなく人間として成熟していきたく思っている。特に大学というところは高校と違って、入学して来た人達の出身地がさまざまである。このいろいろな人達によってどんなカラーが出来上がるのかと思ふと楽しみである。またその中でたくさんの方達を作りたい。少し厄介なのはクラスの人数が百人以上もいるということである。入学して一月ぐらい過ぎていくのに顔もろくに覚えられないのである。大学は自由な所だけに自分を制していくのは難しい。人は皆享楽に陥り易いが、それでは何も心に残らない。自分を自由に生かしてみたいと思つてみる。

応援団と聞いただけで震え上がっていた私にとっては、今信じられない経験をしているのであるが少しやってみてみようではないかとわかってきた。先輩達も包容力がありやさしい一面もある。そして自分の学校のクラブを応援するということもなかなか意義があつておもしろいと思ふ。他のクラブとの交流、友人関係、先輩後輩の関係、こういう中で社会人になるための人格を少しでも身につけていきたいと思ふ。わずか四年である人の生涯ではほんの瞬間にしか値しないのであるが、そこで得られるものは、人生で最も価値のあることではないだろうか。

春期合宿を終えて

期間 三月二十二～二十八日
場所 淡路島南淡町 福良



昭和五十六年度春期合宿は、淡路島南淡町福良の「民宿クボタ」で、団員以下団員九名によって行なわれた。また、合宿期間中には先輩方や顧問の梶川先生も、御光来下り、御指導して戴いた。

今回の合宿の目標は、団員各自の基礎体力の向上と、新二、三回生としての自覚を確認することにあつた。今、合宿を振り返ってみるとこの目標は、達成できたと思ふ。

合宿日程は、大学で五日間の前稽古を行ないその期間中に卒業式に参加した。それから七日間の合宿地での合宿であった。初日は、移動日であり昼過ぎ合宿地に着きその後すぐに稽古に入った。前稽古の時から身体の痛さと船旅の疲れのため時間は短めであった。二日目の午後の稽古には、ランニングで「戦没学徒記念塔若人の広場」まで行きその稽古であった。稽古後約一時間の見学を行なった。ここには、第二次世界大戦で国のために死んでいった学徒の遺品や記録文が展示されていた。自分たちのように戦争を知らない者にとっては、ただ哀れみの気持ちだけでは見ることができないものがある。

人生は楽しく明るいものか、そう思われてくる。もちろん、不安や怖れなどあるはずがない。年をとつても不幸に見舞われても、こうした心と態度さえ失わなければ、楽しいことはいくらでもあるのである。

いつまでも自分の考えに固執し、我にとらわれる人の目に映る世界は、単色の世界、墨絵のような世界である。我にとらわれず、常に進歩発展する人の前に開けてくるのは、美しいカラーの世界である。味気ない、退屈だという心が入りこむ余地がない。

—北村光氏より—

のであると思ふ。それだからと言つてよ思ったのかと聞かれても、我々は言葉に困つてしまつたのである。ただ、今ここで言えることは、平和な時代に生まれ育つてきたことには、はなはだ感謝しているだけである。でも、この平和な時代を自分勝手に生きようとは思わない。この若人の広場の見学は、我々の心の中に深く何かを残してくれたことと思ふ。また三日目の午後の稽古には、春合宿恒例の十八キロメートルのマラソン大会が行なわれた。残念ながら、足の怪我のため二人が参加できず八人で行なわれた。二回生にとっては、この様な長い距離を走るのは始めてらしく顔にはいい知れない不安があつた。でも全員途中で挫折することなく走ってきたことは、たいへん喜ばしいことであつた。マラソンとは、自分との戦いであると思ふ。途中で歩くこともでき、また止まって休むこともできる。これは、我々の人生と同じいやな事からすぐに逃げてしまいたい楽な方に行こうとすることに似ていると思ふ。人間として楽な事ばかりを選んで生きることは、少し考へものであると思ふからである。このようにいろいろなことを学び経験した合宿もあつたという間に終わってしまった。

我々は、合宿を終るたびに人間として大きく成長していくように思ふ。

最後に、この合宿の成果を、今後の活動に発揮し、工大をより一層盛り上げて行こうと思ふ。

工大の歌

応援歌

青春の血は燃えて
仰ぐ太陽新しき日本を築く
高き知性をあつめてここに
火を吐く力
力、力躍り立つ金色の
アポロ工大！
見よ見よこの力の往く所
お烈風の葉を巻くごとく
はむこ者無きを！
我等我等
意気の我等工大！

結承転起 漫画研究会作

光陰矢の如し。応援団で悔いのない青春を送ろう！

募集

應援團本部員

我々應援團では、活発に行動するため広く団員を募集しています。

大阪工業大学應援團本部

お気軽に御利用出来るみんなのお店

喫茶 **ルーブル** COFFEE

Louvre

旭区中宮5-6 (大阪工大正門前)
TEL. 951-2220

炉ばた焼 **福丸**

2階にてコンパも可
電話 952-3020

麻雀 **山** 喫茶・軽食

YAMA
TEL951-7592 TEL954-9351
工大正門前

木のかわりのコーヒハウス

TOGETSU

五大東門通り
大阪市旭区中宮5丁目5-18
Tel. 06-953-7613
8:00AM~10:00PM

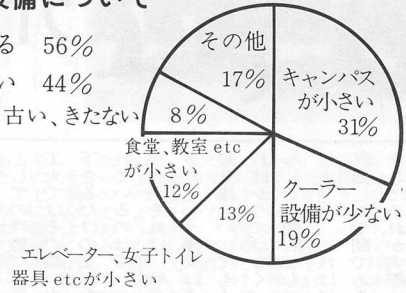
アンケート調査結果

調査実施日 S. 56.5.15・16

A. 次の1~12の事柄に関する不満、悩みがありますか。
ある場合は具体的に書いて下さい。

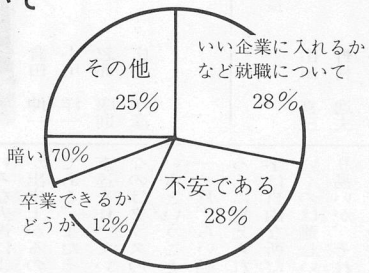
1. 設備について

ある 56%
ない 44%



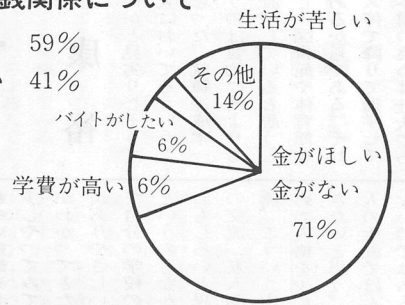
5. 将来について

ある 37%
ない 63%



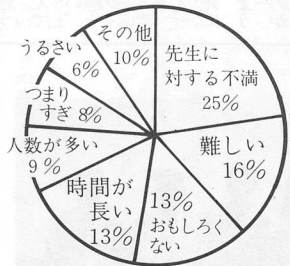
9. 金銭関係について

ある 59%
ない 41%



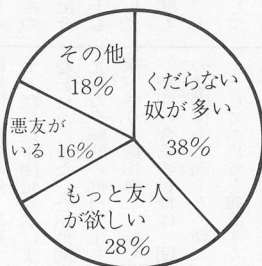
2. 授業について

ある 59%
ない 41%



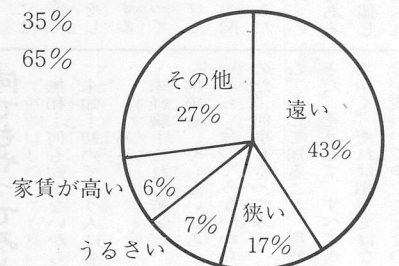
6. 友人について

ある 23%
ない 77%



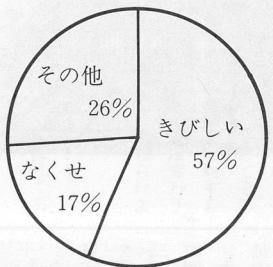
10. 家及び下宿について

ある 35%
ない 65%



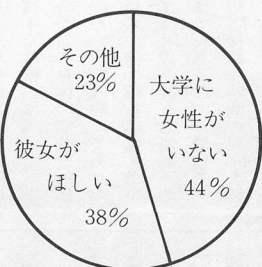
3. 履修制限について

ある 51%
ない 49%



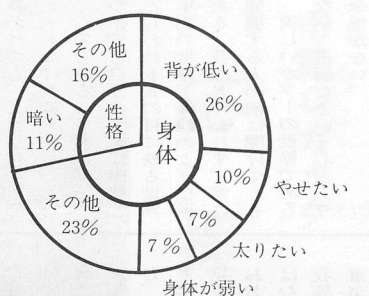
7. 異性について

ある 46%
ない 54%



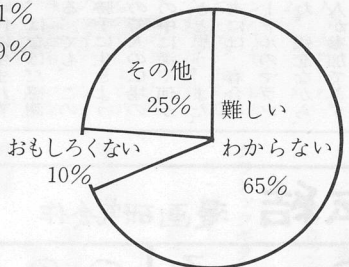
11. 身体や性格についての悩み

ある 30%
ない 70%



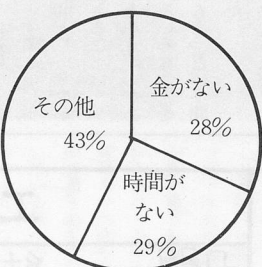
4. 勉強について

ある 51%
ない 49%



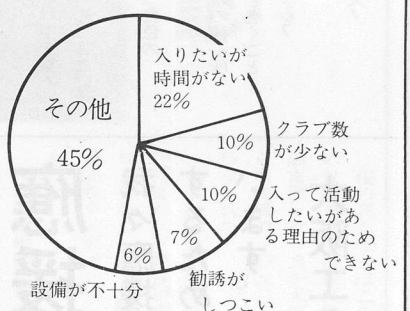
8. 趣味について

ある 22%
ない 78%

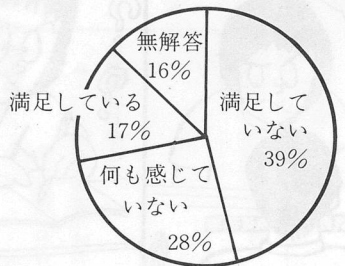


12. クラブ活動について

ある 20%
ない 55%
無解答 25%



B. 学生生活についてどのように感じているか



以上のようにアンケート調査を行いました。
今回は学生の意識調査ということで、学生諸君もよく協力してもらって感謝しております。
これを機に我々もより一層、学生に接して行き、多々ある問題を諸君と一語に考えて行きたい。

パチンコ アレンジ **大丸会館**
新装改店
大工大生のアイドル
2F テレビゲーム
大阪工大正門前通り TEL. 952-2854

RENTAL RECORD
銀盤
ロックから演歌まで
大阪工業大学 工大高
神戸屋
タバコ 天律医院薬局
ココ
入会無料

喫茶・スナック
シャンボール
TEA TIME 7:00~18:00
WINE TIME 19:00~24:00
今市商店街 TEL06-954-9508